

第673号 展示と催し物案内

東京国立博物館 ニュース

2005
10・11
月号

興福寺創建1300年記念 特別公開「国宝 仏頭」●2

特別展 華麗なる伊万里、雅の京焼 ●3

特別展 北斎展 ●4

特別展「書の至宝-日本と中国」/中国書跡講座 ●5

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」●6

親と子のギャラリー 鏡のうらおもて ●6

平常展見どころ案内 2005年10月・11月

国宝 紅白芙蓉図 ●7

特集陳列「典籍—古写本の魅力—」/特集陳列「祈りの中の
染と織」/特集陳列「中国書画精華」/国宝 観楓図屏風/
重文 青磁茶碗 銘 馬蝗絆 など ●8-11

とうはく花だより ●11

ようこそ! 博物館の舞台裏へ 仏頭ができるまで の できるまで ●12

INFORMATION コンサート/講演会など ●14

TOPICS 九州国立博物館10月16日(日)開館 ●15

2005年10月・11月の展示・催し物 ●16

特別公開「国宝 仏頭」

数々のドラマを秘めた白鳳の貴公子
いよいよ本館特別5室で特別公開！



●仏頭(旧山田寺講堂本尊)
飛鳥時代・7世紀(白鳳文化期) 奈良・興福寺蔵
側面や背面からも観覧できる展示にご期待ください

特別公開「国宝 仏頭」

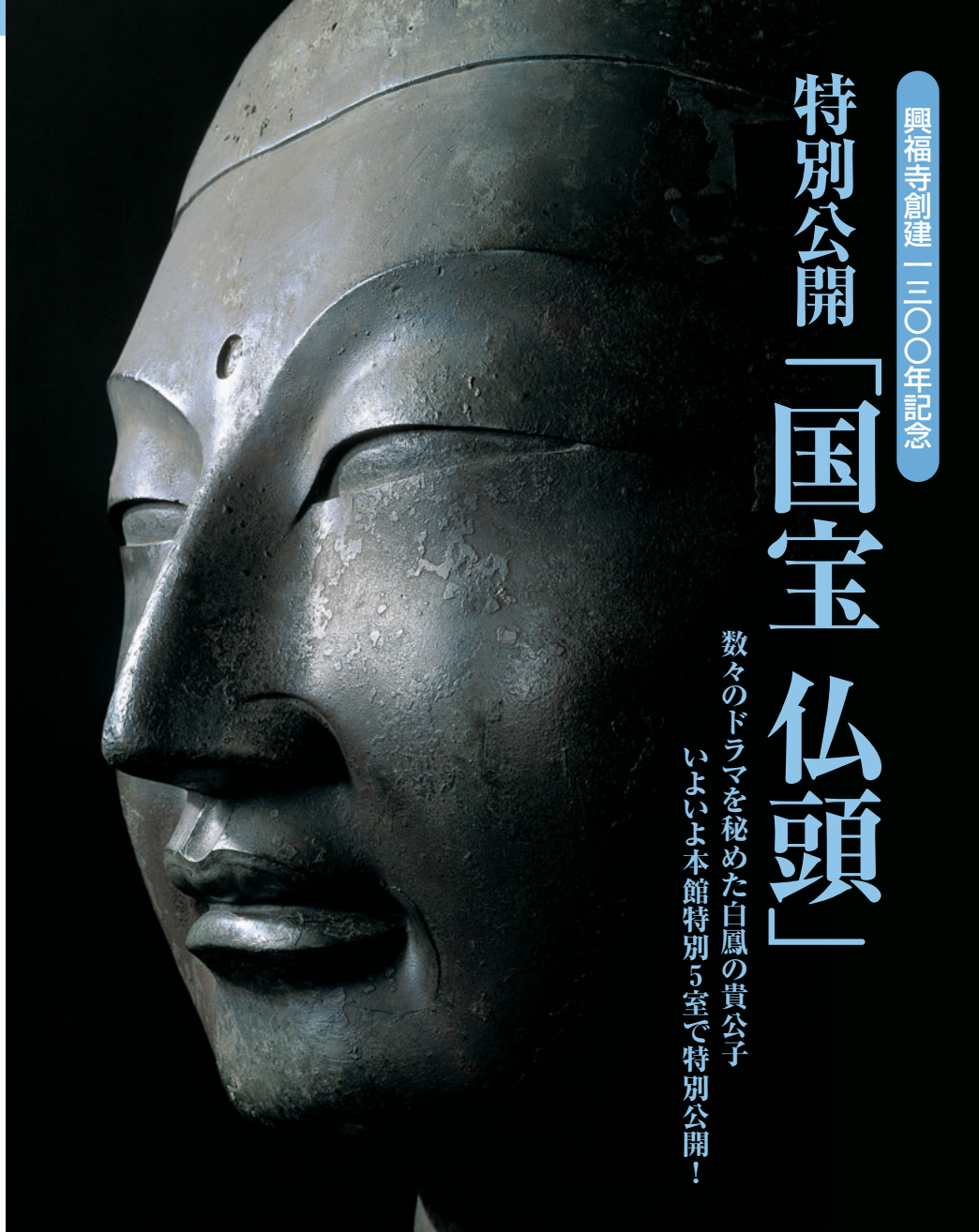
9月21日(水)～10月16日(日)

東京国立博物館 本館 特別5室

主 催：東京国立博物館 興福寺
日本経済新聞社

観覧料：平常料金でご覧いただけます
一般420円 大学生130円

* 高校生以下と満65歳以上の方は無料。障害者と
その介護者1名は無料です。入館の際に年齢のわ
かるもの、障害者手帳などをご提示ください



興福寺の国宝・仏頭は、文治三年（一一八七）に興福寺東金堂に移される以前は飛鳥の山田寺講堂に安置されていた。山田寺は、中大兄皇子（後の天智天皇）や中臣鎌足らとともに大化改新で活躍した蘇我倉山田石川麻呂が建てた私寺です。

山田寺は皇極二年（六四三）に金堂が建ち、大化改新を経て、大化四年（六四八）に初めて僧が住むようになり寺としての機能が整いはじめます。その矢先の大化五年三月二十五日のこと。石川麻呂は蘇我日向の告げ口によって、中大兄皇子に対する謀反の疑いをかけられ完成後もない金堂で自害します。彼だけでなく妻子も連座した自害でした。石川麻呂を追って山田寺に入った蘇我日向らは、物部・二田造塩に命じて石川麻呂の首を切り取り、屍を刀で刺し上げ、叫びながら再度屍を斬りつけたと記録されています。死体をさらに斬りつけるという残忍さは古代においても類をみないものです。三月三十日には近臣者十四名が連座して殺され、さらに九名は絞首刑、流刑は十五名にも及びました。一つの事件でこれほどの処刑があった例も以前にはありませんでした。

後日、中大兄皇子は石川麻呂の無罪を知り、強く後悔して「哀歎やみがたし」と述べています。石川麻呂の自害により山田寺の造営は一時中断しますが、その後は石川麻呂の追悼のために伽藍が整えられることになりました。天智天皇となった中大兄皇子も何らかの援助をしたことでし

よう。天智二年（六六三）に、塔建の準備が進められますが、本格的に伽藍の全体が整えられるのは次の天武朝に入ってからのことです。天武七年（六七八）には講堂の本尊丈六仏の鑄造が始められ、七年後の天武十四年の三月二十五日に開眼供養が行われます。三月二十五日は石川麻呂の祥月命日にあたります。これが今興福寺に残る仏頭なのです。その制作には、石川麻呂の孫娘で天武天皇妃の鸕野讃良皇女、つまり後の持統天皇の力が大きかったと考えられます。皇女らによる講堂本尊造営には、非業の死を遂げた祖父への強い哀悼の念が込められているのです。

興福寺仏頭は少年の面影を残す顔つきですが、おおらかさがある一方で、少し厳しいまなざしをもっています。その表情には何が込められているのでしょうか。石川麻呂の追悼とどのような関係があるのでしょうか。想像は尽きません。

（金子啓明）

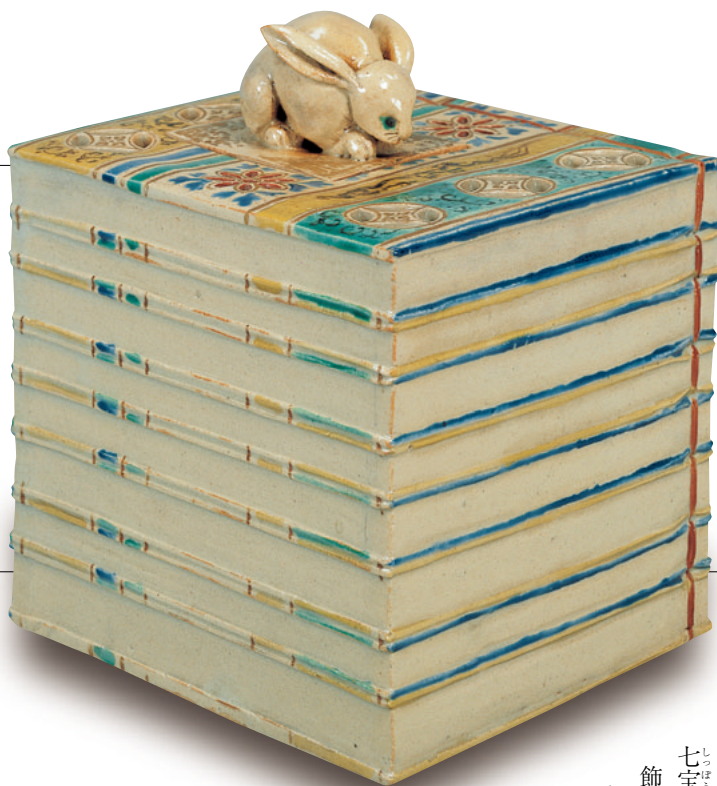
仏頭はどうやってつくられたのか？
見れば納得！制作工程模型展示

東京芸術大学保存修復彫刻研究室、鑄金研究室の二協力で仏頭鑄造の工程模型を展示します。会場では、模型制作に関わった東京芸術大学大学院生によるギャラリートークのスケジュールは当館ホームページをご覧ください。

* 模型の制作工程に関しては、本誌12頁13ページに詳細を掲載。

特別展 華麗なる伊万里、雅の京焼

探してみませんか、この1点。色絵冊子形兎鈕香炉 古清水



色絵冊子形兎鈕香炉 古清水
元禄年間(1688~1703) 個人蔵
愛らしい兎が香炉の蓋に

があります。古清水は広い意味では
銕絵や染付も含まれていますが、そ
の中心となるものは十七世紀後半か
ら十八世紀に焼かれた緑と金彩が印
象的な色絵陶器です。名工の手によ
るものでもなく、その多くは無印の
古清水ですが、いかにも京都の焼物

積み重ねられた八冊の和綴本、そ
の上にかわいらしい兎の姿。お分か
りですか、これは香炉なのです。
仁清、乾山、頼川、木米と、京焼
の歴史は名工の歴史ということもで
きます。そんな中であって、名も知
れぬ京焼の陶工達によって作られた
作品に、古清水と呼ばれる色絵陶器

らしい作品を作り上げています。
それぞれに厚さが違い、朱色の糸
で綴じられた八冊の冊子。この香炉
だけでは何の本かは分かりません
が、同様に冊子形をした硯箱で「栄
花物語」と記された作品が知られて
います。そこからするとあるいはこ
の冊子も平安の雅を伝える和歌物語
であつたのかも。そして
その冊子の表紙が
七宝文や花文などで
飾られ、それには
られ、さらには

透となつてゐる。蓋の鈕は兎。まさ
に佳品という言葉がふさわしい作品
です。古清水の陶工が平安朝の雅の
世界を表現してみせたこの香炉、会
いに来てみませんか。

(伊藤嘉章)

特別展 華麗なる伊万里、雅の京焼

10月4日(火)~12月4日(日) 東京国立博物館 表慶館

主催：東京国立博物館 読売新聞社

協力：JR東日本

観覧料：一般1300円(1200/1100) 大学・高校生900円(800/700)
小・中学生無料

* () 内は、前売り/20名以上の団体料金です

* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

■記念講演会

①10月22日(土) 13:30~15:00 平成館大講堂
「仁清の茶壺」 大手前大学人文科学部助教授 岡 佳子

②11月19日(土) 13:30~15:00 平成館大講堂
「伊万里磁器の魅力に迫る」 出光美術館主任学芸員 荒川 正明

事前申込制 定員380名

聴講無料(ただし、特別展「華麗なる伊万里、雅の京焼」の観覧券が必要)

申込方法

官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電
話番号・希望日を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、
下記までお申し込みください

※1枚のはがきで、1人のみ申込可能

※応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります

申込先

〒151-0063 渋谷区富ヶ谷1-19-4 代々木パークビル202

アート・ベンチャー・オフィス ショウ内「伊万里、京焼」講演会 係

申込締切

①10月7日(金) 必着 ②11月4日(金) 必着

「華麗なる伊万里、雅の京焼」そのほかの主な出品作品

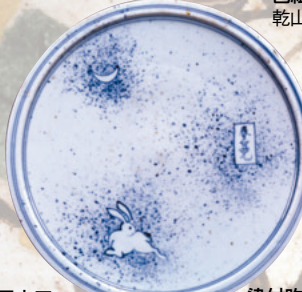
色絵波に兎文大皿
伊万里・古九谷様式
17世紀 個人蔵



色絵紅葉図透彫反鉢
乾山 18世紀 個人蔵



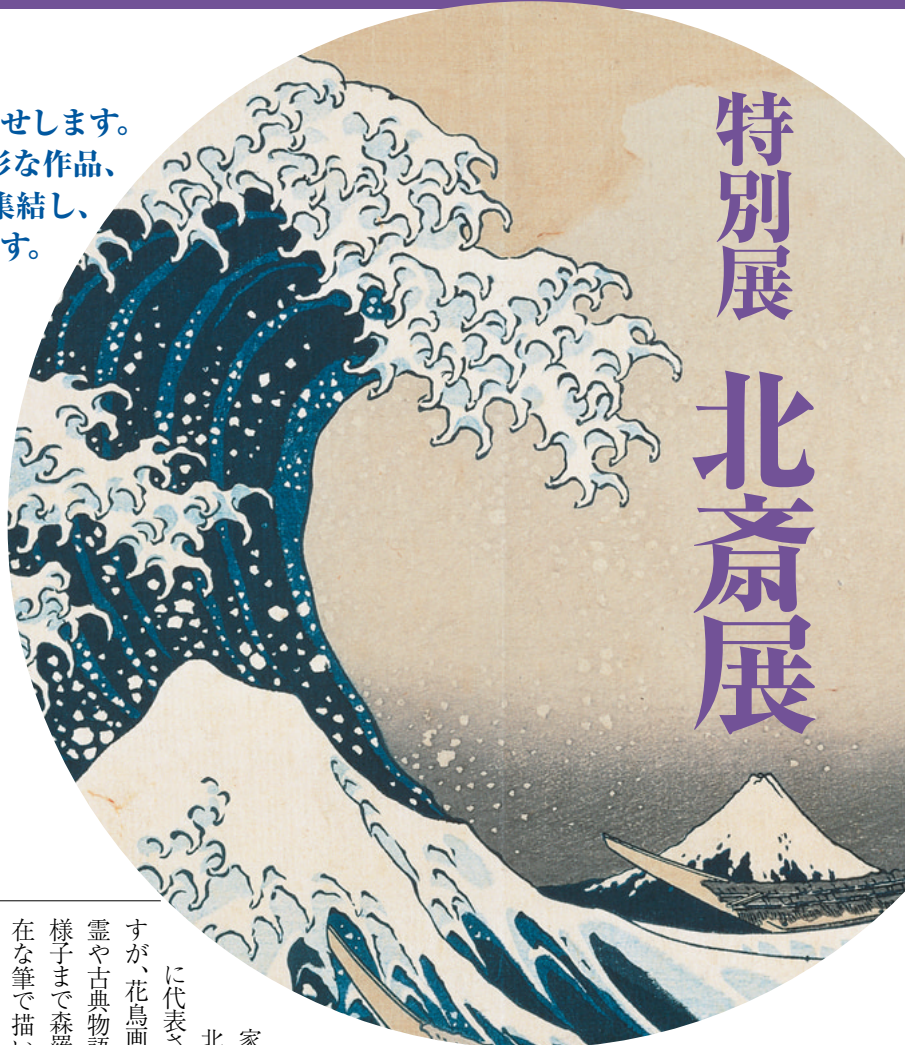
色絵輪繫文三足大皿
鍋島 18世紀 個人蔵



染付吹墨月兎図皿
伊万里 1620~30年代

特別展 北斎展

北斎のすべてをお見せします。
今までの北斎のイメージをくつがえす多彩な作品、
選りすぐりの500点が世界から上野に集結し、
70年にわたる画業をたどります。



富嶽三十六景・神奈川沖浪裏 部分
横大判錦絵 為一期 アメリカ・メトロポリタン美術館蔵
(展示期間10月25日～11月13日)
The Metropolitan Museum of Art, The Howard
Mansfield Collection, Purchase, Rogers Fund, 1936
(JP2569) Photograph ©1994 The Metropolitan
Museum of Art

ました。北斎は、世界で最も有名な日本の芸術家なのです。

北斎は、『富嶽三十六景』に代表される風景版画が有名ですが、花鳥画、美人画はもちろん、幽霊や古典物語、果ては気象の変化の様子まで森羅万象あらゆるものを自在な筆で描いています。浮世絵版画だけでなく、肉筆画、注文制作の摺物、版本挿絵などさまざまなジャンルを手がけています。さらに作画スタイルは千変万化。流派や伝統にとらわれることなく、九十歳で没するまで独自の表現技法を追求し続けま

葛飾北斎(二七六〇～一八四九)という、荒れ狂う大きな波や、赤い富士山を思い出す人が多いでしょう。これらの作品は、教科書や雑誌などさまざまなところでお目にかかり、強い印象を残しています。また、日本

ばかりでなく海外でも広く紹介されています。北斎の作品は、印象派の画家達にも大きな影響を与え、北斎の存命中にも写されてヨーロッパにわたっています。北斎は、一九九九年、アメリカの「ライフ」誌が行ったアンケートで「この一〇〇〇年でもっとも偉大な業績を残した世界の一〇〇人」の中に日本人でただ一人選ばれ



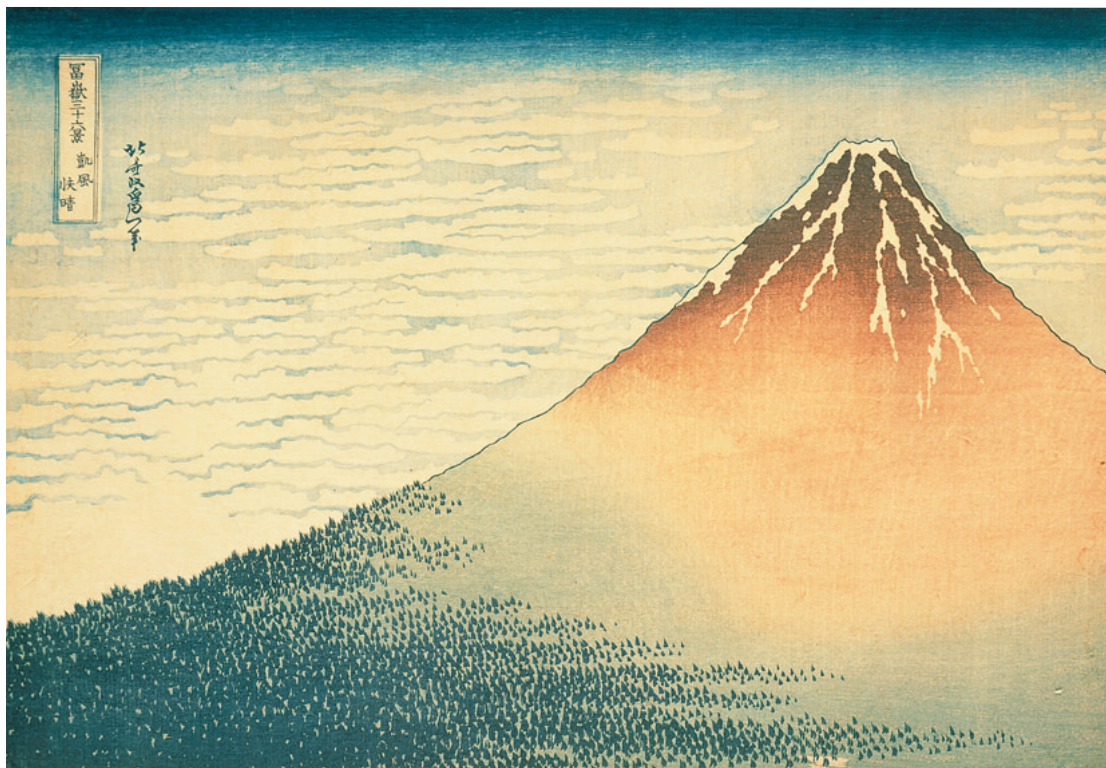
夜鷹図 肉筆画 宗理期 細見美術館蔵 遊女を墨、藍、代赭で一息に描く。宗理様式の代表作

した。北斎は、時期によって傾注する分野が異なり、作画スタイルが変わります。また名前もしばしば変えました。本展覧会では、勝川春朗の名前でデビューした二十歳の役者絵から、九十歳の没年に描かれた肉筆画まで、七十年の長きにわたる作品約五〇〇点を、時代順に北斎の六つの名前で「春朗期」「宗理期」「葛飾北斎期」「戴斗期」「為一期」「画狂人中期」の六章に分けて展示し、その多様な芸術創造の軌跡を概観するものです。

本展覧会の作品選定は、当館の担当者だけでなく北斎研究家として知られる太田記念美術館副館長永田生



正宗娘おれん 瀬川菊之丞
細判錦絵 春朗期
北斎20歳。画壇デビューの作品



富嶽三十六景・凱風快晴 横大判錦絵 為一期 フランス・ギメ美術館蔵
朝日に赤く燃える富士の山肌の繊細な色に注目。「最高の褶り」を選んで展示

©Photo RMN/Thierry Ollivier/distributed by Sekai Bunka Photo

期の早い保存状態の良い作品として世界的に定評あるものです。質の高い版画作品のほかに、肉筆画も一〇〇点以上展示します。作品の数もさることながら、質にこだわった展覧会として、また、北斎作品の多様性を知る展覧会として、これまでにない「北斎展」となっています。ぜひ「画狂

人」北斎の世界をご覧ください。あなたの知っている北斎にも、知らない北斎にも会えることができるでしょう。
(田沢裕賀)



八十三歳自画像 肉筆画 画狂老人記
期 オランダ・ライデン国立民族学博物館蔵 手紙に描いた自画像



○狸狐図 双幅のうち 肉筆画
画狂老人記期 個人蔵 僧に化けた狐と対になる。89歳の作品
(展示期間10月25日～11月13日)

◆米国展

HOKUSAI(北斎展)

2006年3月4日(土)～5月14日(日)

アーサー・M. サックラー美術館(スミソニアン協会国立アジア美術館、ワシントン)

■記念講演会

11月12日(土) 13:30～15:00 平成館大講堂

「北斎の生涯と芸術」

本展ゲストキュレーター・太田記念美術館副館長 永田生慈

事前申込制 定員380名

聴講無料(ただし、特別展「北斎展」の観覧券が必要)

申込方法 官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申し込みください

※1枚のはがきで、1人のみ申込可能

※応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります
申込先

〒107-0062 東京都港区南青山2-24-15 青山タワービル11階
コスモ・コミュニケーションズ内「北斎展」講演会 係
申込締切 10月28日(金) 必着

特別展 北斎展

10月25日(火)～12月4日(日)

東京国立博物館 平成館

主催：東京国立博物館 日本経済新聞社
特別協力：

フリーア美術館・アーサー・M. サックラー美術館(スミソニアン協会国立アジア美術館、ワシントン)

後援：外務省 文化庁 米国大使館

協賛：

アステラス製薬 全日空 トヨタ自動車 富士ゼロックス 松下電器 三菱商事

観覧料：

一般1500円(2600/1200/1100)

大学生1000円(1700/800/700)

高校生600円(900/400/300)

小・中学生無料

※()内は、当日2回券/前売り/20名

以上の団体料金です

※障害者とその介護者1名は無料です。
入館の際に障害者手帳などをご提示ください

※作品保護のため、展示期間中作品の展示替えがあります

特別展予告と関連講座のお知らせ

書の至宝一 日本と中国

●白氏詩巻

書は東洋における最も美しい芸術の一つとして知られています。この展覧会では、中国の書の歴史をたどるとともに、その影響を受けながら独自の世界を築いてきた日本の書の展開をご覧ください。聖徳太子の「法華義疏」や「秋萩帖」「白氏詩巻」などの名品に加えて、上海博物館の協力のもと、「淳化閣帖」や虞世南の「汝南公主墓誌銘稿」など同館の優品を多数出品。日中両国の書文化の歴史を振り返り、さまざまな文化や思想を背景として形成された美しい書の世界に迫ります。

2006年1月11日(水)～2月19日(日)

東京国立博物館 平成館

主 催：東京国立博物館 朝日新聞社 上海博物館 観覧料：未定

■関連事業「中国書跡講座」

展覧会に先立ち、少人数を対象とした連続講座を行います。

第1回 11月17日(木) 14:00～15:30

「字体の変遷—隷書の黎明—」跡見学園女子大学助教授 横田恭三

第2回 12月1日(木) 14:00～15:30

「宋元時代の書—国内所蔵の名品を中心に—」台東区立書道博物館研究員 鍋島稲子

第3回 12月15日(木) 14:00～15:30

「明清時代の書—法帖から金石へ—」群馬大学教授 澤田雅弘

第4回 2006年1月19日(木) 14:00～15:30

「拓本概論—古代の印刷—」当館列品室長 富田 淳

会 場 資料館セミナー室 定 員 50名(事前申込制)

参 加 費 全4回で4000円(特別展「書の至宝—日本と中国」チケットを含む)

申込方法 4回連続して参加できる方を対象とします

官製往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記のうえ、下記までお申し込みください

※1枚のはがきで、1人のみ申込可能

※応募多数の場合は、抽選のうえ聴講券を送ります

申込先

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育講座室「中国書跡講座」係
申込締切：11月2日(水) 必着

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

10月18日(火)～11月27日(日)

本館特別2室・特別4室

「東京国立博物館コレクションの保存と修理」の特集陳列は今年で六回目を迎えます。今回は平成十五・十六年度修理品の中から二十件程度を展示します。修理で得た新知見を含め、作品がもつ情報を一つでも多くご紹介できるように関連資料などをあわせて展示します。保存・修理

の方法について説明するほか、なぜそのような修理方法を選択したのか、なぜそのような材料を選択したかなど、修理に至るまでの過程や修理記録の作成にもスポットをあてる予定です。作品を解体したときに現れる内部の様子、修理したときに取り除いた古い裏打ち紙など、通常の展示では決してみることでできない作品内部など、文化財のもう一つの顔をのぞいていただけるでしょう。どうぞお楽しみに。

(土屋裕子)



チウカウカブ
江戸～明治時代・19世紀 木綿製 修理後

十六羅漢像(第一尊者)
南北朝・14世紀 絹本着色 修理後



■関連事業

1. 見学ツアー“保存と修理の現場へ行こう”
文化財の保存と修理についての解説
および修理室の見学ツアー
対象：一般
第1回 10月26日(水) 13:30～15:30
小講堂・修理室等
第2回 11月9日(水) 13:30～15:30
小講堂・修理室等
(第1回・2回ともに内容は同じです)
定員：各回30名(事前申込制)
申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に
希望日・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電
話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏
名を明記のうえ、下記までお申し込みください。
*1枚のはがきで、1人のみ申込可能
*応募多数の場合は、抽選のうえ参加通知を送ります
締切：第1回10月11日(火)
第2回10月25日(火) 必着

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公
園13-9 東京国立博物館「見学ツアー」係

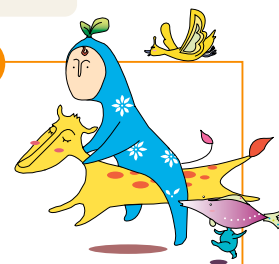
2. 座談会「文化財修理の条件—修理方針は
どのように作られるのか—」
日時：10月29日(土) 13:30～15:00(開場13:00)
会場：平成館大講堂
定員：380名(当日先着順)
出席者：元興寺文化財研究所・NPO法人文化
財保存支援機構 増澤文武、株式会社修美 竹
上幸宏、染織品修理技術者 石井美恵、東京文
化財研究所 加藤寛、当館保存修復課長 神庭
信幸ほか
聴講無料(ただし当日の入館料が必要)

3. ギャラリートーク(列品解説) 修理品等の解説
会期中11月8日を除く毎週火曜日、14:00から
*本誌巻末の「10月・11月の展示・催し物」参照

親と子のギャラリー

鏡のうらおもて

11月8日(火)～12月18日(日)
平成館1階 企画展示室



「鏡は何でできていますか」と質問すると、ほとんどの人はガラスと答えることでしょう。しかしガラス製の鏡が普及するのは近代になってからで、それ以前は銅製の鏡が一般的でした。これは、銅製の板を磨いて姿が映るようにしたもので、背面にはさまざまな文様が表されています。銅鏡も現在の鏡と同じく化粧道具の一つでしたが、そこに神秘的な力を感じた古代の人々にとっては「祈りの鏡」としての役割ももっていました。今回の親と子のギャラリーでは、銅鏡のミステリアスな世界にせまります。

(吉田知加)

鏡の表面

銅製の鏡も、平らにした表面を砥石や砂や墨を用いて磨くと、ガラスの鏡と同じくらい姿をよく映すことができます



魔鏡 江戸時代・18世紀
江戸時代には、ある角度で鏡の表面に光を当てると、裏側の文様が浮かび上がる「魔鏡」と呼ばれるマジックミラーがつくられました。どのように見えるかは会場での楽しみ



王権のシンボル 龍鏡(だりゅうきょう)
古墳時代 弥生時代に大陸からもたらされた鏡は、王権のシンボルとして各地の豪族の首長に代々伝えられました

これだけは見逃せない!
おすすめの
この1点

酔芙蓉の色の移ろいに「時」を描く 国宝 紅白芙蓉図

10月4日(火)～10月30日(日) 東洋館第8室 中国絵画

李迪は中国の南宋時代前期(十二世紀後半)に活躍した宮廷画院の画家です。この紅白芙蓉図は李迪の代表作として知られる名品ですが、その品格の高さから南宋の花鳥画の最優の作品ともいわれます。各図に「慶元丁巳歲李迪筆」の落款があり、慶元三年(一一九七)の作であることが明らかにになります。中国において芙蓉は「榮華の花」といわれ、「富貴の花」といわれた牡丹とともに親しまれました。古くは芙蓉といえば蓮のことを意味し、詩文などでは美人のたとえとして多く用いられましたが、時代とともに、蓮は「蓮」「荷」というのが一般となり、芙蓉といえば、この李迪の絵のような花木の木芙蓉を意味するようになったようです。この木芙蓉の中に、朝は白、日が昇るとともに酒に酔うかのように紅味を帯び、夕には深紅になるものがあります。これを酔芙蓉といいますが、この李迪の絵は、正にこの酔芙蓉を描いたものと思われまゝ。中国花鳥画の一つの頂点を築いた北宋時代末の徽宗の画院では、絵画には「もの」のもつ

本性を正確に、しかも詩情あるものとして表現することが求められました。花を描けば、どの季節の、一日のどの時刻のものが分かるようであればならなかったのです。そこには宋時代の絵画において重要なテーマであった「時」の表現があったように思われます。紅白芙蓉図は正にそのことを具体的に示す作品といえます。繊細な線描と鮮麗で微妙な諧調をもつ色彩により、紅芙蓉、白芙蓉はともに極めて写實的に表現されており、余白を生かした小画面の空間は自然で詩情豊かなものとなっています。この作品は中国ではおそらく画冊仕立てであったもので、日本に舶載後、茶の湯の趣味の中で、初めて一対の掛幅として鑑賞されるようになったと思われまゝ。この作品をみると、李迪は時とともに変化する酔芙蓉の一日の姿を朝昼夕の三図に分けて描いたのではないか、すなわち、もう一図、深紅の芙蓉図があったのではないかと思われてきます。福岡孝弟氏旧蔵品。

(湊 信幸)



●紅白芙蓉図 李迪筆 南宋時代・慶元3年(1197) 日が高くなるにつれほんのり赤く色づく酔芙蓉。博物館の庭にもあります

*特集陳列「中国書画精華」で展示されます。特集陳列については本誌9ページ、酔芙蓉については本誌11ページ「とうはく花だより」をご参照ください

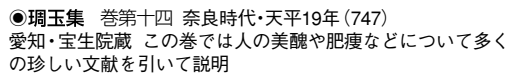
本館特別1室 企画展示

特集陳列
「典籍——古写本の魅力——」

10月12日(水)～11月27日(日)

典籍は書物の意味で、写本と版本があり、内容から国書（和書）、漢籍、仏典、洋書などに分けられます。わが国に現存する典籍は、書写や伝来の過程で、諸種の伝本系統を生じていますが、その背景には平安時代以来の家学の伝統があり、これによって典籍は大切に守られてきたといえます。今回は、奈良時代から室町時代までの国書、漢籍をとりあげ、現存最古あるいは唯一といった稀少性や、佚文、紙背文書などを伝える古写本を紹介し、その魅力を鑑賞していただければと思います。

(高橋裕次)



本館16室 歷史資料

机上で楽しむ建築模型
特集陳列「起絵図」

9月13日(火)～10月23日(日)

「起絵図」は、平面図を描いた台紙に壁面や天井の図を貼り付け、建物の立体的な構造を再現する折畳式の簡易模型です。とくに小さな空間に複雑な立体構造を持つ茶室の再現に適した図法として活用されました。茶室などの構成を伝えるさまざまな起絵図をご紹介します。

(高橋裕次)

起絵図
銀閣寺 東求堂 江戸時代・19世紀
堂内にある四畳半の書斎「同仁齋」は
茶の湯にも利用されたといわれる



9月27日(火) ~ 12月11日(日)

仏教が興隆した飛鳥時代、寺院では仏画の代わりに刺繡された仏の像をまつていたといわれ、中宮寺の天寿国繡帳に当時がしのべれます。鎌倉時代になりますと、念仏を唱えれば極楽浄土へいけるといふ阿弥陀仏の信仰が流行り、阿弥陀来迎図を刺繡した掛幅がたくさん寺院に奉納されました。お釈迦様の螺髪や図中の経文は、糸の代わりに施主自身の髪で繡い表され、仏身へ近づきたい

と願う、信仰篤い人々の祈りが切々と伝わってきます。寺院にあふれる幡や袈裟といった染織の多くも、信者のお布施によるものです。刺繍の細やかな手わざ、草木染による柔らかな色彩、丹念に織り出された模様は、祈りを象ることの意味を現代人に優しく語りかけてきます。11月7日(月)に一部展示替えを行います。

(小山弓弦葉)

（小山弓弦葉）



◎續仏阿弥陀三尊来迎図 鎌倉時代・十三世紀 滋賀・寶厳寺所蔵 仏像だけではなく、施主の髪を使用した種子や表装もすべて、一針一針、手刺繍で表されます(11月8日〜12月11日展示)

特集陳列
「武芸—鷹狩・犬追物—」

10月25日(火)～12月11日(日)

武芸には多様な意味があります
が、ここでは武士が身につけるべき
作法としてとりあげました。江戸時
代、鷹狩りには主従関係を緊密にす
る儀礼の役割があり、大追物は、鎌

倉から室町時代にかけて、武芸鍛錬法として盛んに行われました。その作法のあり方を示す資料をごらんください。
(高橋裕次)

(高橋裕次)



武田流犬追物雛形 江戸時代・19世紀

德川宗敬氏寄贈

厳しいルールがあり、人も犬も真剣。犬を傷つけぬよう、^{ひきめ} 摘をつけた幕目の矢が使われた



鳥獸菟醬十二角形鉢

タイ 17世紀 南国独特の文様が表された漆器は、日本の茶人にも珍重された

南国の漆工芸

「蒟醬——タイの漆器」

10月4日(火)～12月25日(日)

蒔^{きん}蠟^{ろう}とは、まず器面に文様を線彫りし、その中に色漆^{いろうるし}を充填^{じゅうてん}して、乾いたのちに研^とぎ出す技法をいいます。タイ、ミャンマーに伝わるもつとも

一般的な漆工芸技法です。この地方の人々は、檳榔樹の実を薄く切り、鬱金の粉や香料と混ぜ合わせ、石灰を塗った蔓草の葉に包んで噛む習慣があります。一種の嗜好品であり、漆の容器に収められました。タイでは檳榔樹の実を噛むことをキンマークといいますが、日本にはアユタヤとの交易を通じてタイの漆器がもたらされ、そのおりに蒟醬という呼び名が定着したと考えられています。タイの蒟醬は、黒漆地に朱で、小さな草花の連続文様や、さまざまな空想獣が表されています。

（今井 敦）

(今井敦)

東洋館第8室 中国書画

中国歴代の書画の名宝

特集陳列「中国書画精華」

10月4日(火)～11月27日(日)

碑刻在蘭序一石倚蘭
丘公字伯會稽人也梁主隱於九疑山妙絕楚調以曲
蘭一石於精絕以其聲微而志遠而不堪投人以陳
積明三帝受宣都王封明隨開闢十年於丹陽操車
九十七無子傳之其聲遂頽可

幽蘭第五

邪國中柱。王季子許著高倉杖指顛李富南。
 指懸下与栢依下十三寸許住末面無名食指散緩半
 扶宮高。一指扶面。半扶宮許住末面無名食指散緩半
 寸許案。角於面角仰性而半扶扶脛臂。一緩。起
 此指實十此案面緩。散歷而微無不。打面食指指微撒
 一指。大指入。手面無名打面食指指散桃。無名當十一
 案宮無名打宮凌冷。一。大指當九案宮面。孫金扶宮

商移大指當

許志未平聲役打官無名當十葉徵食指挑嫩應
無名不動下大指當九葉微却却轉微回食指即過
大指急脫微上至八指微起無名不動無名散打官
食指挑嫩應無名不動又下大指當九葉微無名散
打官挑嫩大指挑嫩起大指還當九葉微却急合挑嫩
羽舉大指起無名當九十間葉文武食指打文下大
指當九葉起大指不動人即急武食指打文下大

言數大恠不

名散插微食指應式文說散大指不効急合扶文武太
指當八葉式食指楓式大指緩仰上平寸許
八上一寸許柔指食指打大指相退至八寸上蹴取掌
大指附線下當九葉明文竹明文作兩半扶總掌大指向
節却又文上至八寸七感取餘解○無名當九葉明大指
當八葉國無名打明大指懶仰起無名當十葉按大

指當九素微

戴至尤指微起。無名。疾退下十一選。上至十任散。桃文。
應無名。抽微散。應武之。無名。散打官。無名。打微。食指散。
桃文。中指。無名。間拘微。間桃文。抽微。應。學武之。說歟。四
大指當九。季微。即。升微。作。後。鍊。金。季。二。聲。屈。無名。
於。九。指。素。文。武。食。指。打。文。大。指。當。九。季。文。食。指。使。桃。
文。大。指。素。不。勤。食。指。應。武。之。無名。散。打。官。微。食。指。桃。文。
中指。無名。文。間。拘。微。間。桃。文。抽。微。應。學。武。之。說。歟。四

中折無名蒼
促故大旨牽

武柳上半寸許取聲一句大指於九下半寸許素文武
食指打文大指柳文上至九大指不動食指拘武中指

●碣石調幽蘭第五 唐時代・7～8世紀 琴の演奏法を記したもの。内容だけでなく、見事な唐代書法を伝える優品の一つ

遣唐使による交流などを通して、少なからぬ中国書画が我が国に将来さ
れました。日本に現存す
る中国書画には、名品ゆ
えに大切に受け継がれた
作品が多々あります。今
年も秋爽の好期に、館蔵
品やご寄託品の中から、
中国書画の名品の数々を
陳列いたします。

名品の中には、数奇な評価の変遷をたどった作例もあります。唐時代に書写された古文尚書、劉子残卷、世説新書、王勃集などは、日本に將來された後、一度は反故として紙背（紙の裏）が再利用され、長らく大切にされてきました。しかし世を隔てて改めて本文に目を向けると、すでに本国では失われた貴重な内容であるために、国宝や重文に指定されたものです。さまざまな中国歴代の書画の名品をお楽しみください。

行います。

本館2室 国宝室

紅葉狩りの遊宴

国宝 観楓図屏風

10月25日(火)～11月20日(日)

京都洛北、紅葉の名所高雄で紅葉狩りの宴を楽しむ人々のようすを描いた屏風です。清滝川の群青と紅葉した楓のコントラストが鮮やかです。川辺では女性や子供らが御馳走をならべて美しい秋の一日を楽しんでいます。また車座になった男達が謡や舞に興じる様子も描かれています。この屏風が描かれたのは、応仁の乱の荒廃から都がようやく復興した永禄年間頃です。平和を謳歌する人々の楽しげなようすや、細やかに描き込まれた時世粧など、ぜひ丹念にご覧になってみてください。さて、遠景には神護寺の宝塔と銀雪の愛宕社が見えます。季節はすでに移ろっています。楓には、明るく紅葉した豪華さと同時に、その散りゆく可憐な姿に世の無常を想わせる寂しさもあります。この観楓の情景から、そうした物語もぜひ感じとっていただきたいと思います。

(小野真由美)



●観楓図屏風 部分 狩野秀頼筆 室町時代～桃山時代・16世紀 華やかさと寂しさとも複雑に入り混じる美しい秋景

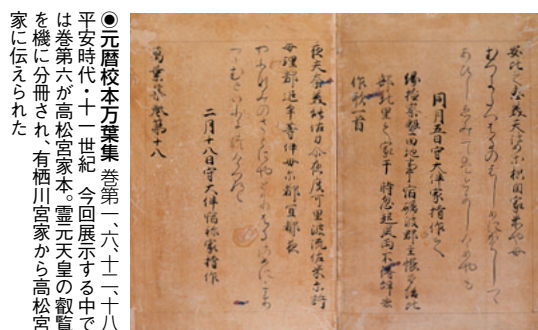
本館2室 国宝室

五百万葉集のひとつ

国宝 元暦校本万葉集

平安時代に書写された『万葉集』の古写本で、桂本・藍紙本・金沢本・天治本とともに五百万葉集の一つに数えられています。巻第二十にある元暦元年(一一八四)校合の奥書から、元暦校本の名で呼ばれます。鎌倉時代に仙覚が校訂する以前の、平安時代十一世紀末頃の能書(のうし)の寄合書になる写本として貴重です(ただし、巻第六は鎌倉時代の補写本)。現在、巻第三・五・八・十一・十五・十六をのぞく十四巻分が知られ、五百万葉中、最大の分量を伝えています。戦後国国有化された時の旧蔵者にちなみ、それぞれ古河家本と高松宮家本と呼ばれます。(丸山猶計)

平安時代に書写された『万葉集』の古写本で、桂本・藍紙本・金沢本・天治本とともに五百万葉集の一つに数えられています。巻第二十にある元暦元年(一一八四)校合の奥書から、元暦校本の名で呼ばれます。鎌倉時代に仙覚が校訂する以前の、平安時代十一世紀末頃の能書(のうし)の寄合書になる写本として貴重です(ただし、巻第六は鎌倉時代の補写本)。現在、巻第三・五・八・十一・十五・十六をのぞく十四巻分が知られ、五百万葉中、最大の分量を伝えています。戦後国国有化された時の旧蔵者にちなみ、それぞれ古河家本と高松宮家本と呼ばれます。(丸山猶計)



●元暦校本万葉集 巻第一・六・十一・十八 平安時代・十一世紀 今回展示する中では巻第六が高松宮家本。元元天皇の勅覧を機に分冊され、有栖川宮家から高松宮家に伝えられた

11月22日(火)～12月25日(日)

本館3室 仏教の美術

どこか軽妙さもただよう六道絵

国宝 餓鬼草紙



●餓鬼草紙 部分 平安～鎌倉時代・12世紀 荒涼とした墓地と楽しそうな餓鬼たち。絵師の巧みな描写力に注目

餓鬼(がき)とその受ける苦の様子を克明に的確な描写で描いたこの絵巻。制作事情は明らかではありませんが、一般には切実な「厭離穢土」の思想が背景にあるとされています。しかし、画面からは恐怖感よりもどこか冷静な好奇の視線を感じてしまいます。当初は後白河院のコレクションの一部であった可能性が指摘されているように、そこにはむしろ、苦の世界さえも賞玩対象として掌中に収めてしまおうとする貴族的な余裕があるのではないのでしょうか。皆さんはどんなことをこの絵に感じるのでしょうか?

(沖松健次郎)

本館3室 禅と水墨画

ダイナミックな空間にみなぎる生命力

重文 四季花鳥図屏風 伝雪舟筆

10月12日(水)～11月20日(日)

雪舟筆と伝える花鳥図屏風は、動植物が実物大に近い大きさで描かれていて、とても迫力があります。画面を所狭しとばかりに伸びる樹木によって強い生命力が表され、また鳥の動きや樹木の枝ぶりによってダイナミックな空間がかたちづくられています。この作品は伝雪舟の花鳥図屏風の中でも、最も重視される三作品の一つです。雪舟が明らから帰国してまもない頃の資料から、彼は水墨の花鳥画と着色の花鳥画の両方を描いていたことがわかります。ところが遺品(いせ)は稀で、本図はたいへん貴重な作例となっています。(救仁郷秀明)



●四季花鳥図屏風 伝雪舟等楊筆 室町時代・15世紀 六曲一双のうち左隻

本館4室 茶の美術

ひび割れに大きな煌

重文 青磁茶碗 銘馬蝗絆

10月25日(火)～2006年2月12日(日)



●青磁茶碗 銘馬蝗絆 龍泉窯 南宋時代・13世紀 三井高氏寄贈 日本に伝わる青磁茶碗の代表作。修理により、かえって声価が高まった

馬蝗絆(ばいはい)という銘はひび割れに打たれた鏝(えん)に由来しています。江戸時代の儒学者伊藤東涯によって享保十二年(二七二)に記された『馬蝗絆茶碗記』によると、室町幕府八代将軍足利義政が所持していたおりに、底にひび割れがあったため、中国に送り、これに代わるものを求めたところ、明時代の中国にはこのような優れた青磁茶碗はすでになく、ひび割れに鏝を打って丁寧に送り返されてきました。この鏝によってかえって一層の趣が生まれ、鏝を大きな煌(きらめき)に見立てて馬蝗絆と名づけられました。

(今井 敦)

金屏風を楽しむ

黄石公張良

虎溪三笑図屏風

10月25日(火)～12月4日(日)

豊臣秀吉が世を去り、徳川家による太平の世となろうとするころ、画面全体を金箔で埋め尽くした金屏風が描かれるようになりました。金雲などの過剰な装飾を省いて人物をより強調する描き方といえます。画面の金箔は、かつては蠟燭のような火のゆらぎのある光で照らされていたので、登場人物たちの世界は、より幻想的に目に映っていました。展示室でも、見る位置を少しずつ変えていけば、金箔に反射する光線の具合が微妙に変わって、画面から受ける印象が刻々と変化していくのがわかるでしょう。

(松嶋雅人)



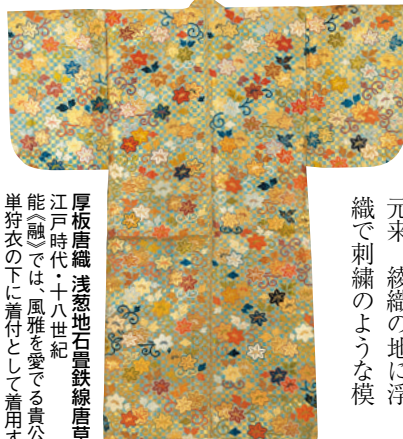
黄石公張良虎溪三笑図屏風(右隻部分) 狩野山楽筆 江戸時代・17世紀
晋の僞慧遠が陶淵明・陸修静を送って、「渡らない」と誓っていた虎溪を思わず過ぎてしまい、三人ともに大笑したという伝説を描く

厚板唐織つてどんな能装束?

「能融」の能面・能装束より

9月6日(火)～10月30日(日)

「厚板」とは、男性役が表着の下に着付ける小袖形の装束で、厚手の綾織物の名称でもあります。一方「唐織」は、女性役が表着にする小袖形の装束で、元来、綾織の地に浮織で刺繍のような模様



厚板唐織 浅葱地石畳鉄線唐草模様
江戸時代・18世紀
能融では、風雅を愛する貴公子、源融が単狩衣の下に着付として着用する

様を織り出した織物の名称でした。若々しく優雅な公家風の男性役が、唐織でできた小袖を厚板のように着付として着用することから、二つの装束を合体させた「厚板唐織」が生まれました。元禄期前後に紀州徳川家で活躍した能役者、藤田伊右衛門豊高が記した日記の中には、当世装束として、厚板の地に牡丹や龍丸紋を浮紋で表した厚板唐織について述べています。厚板唐織は、能装束が豪華絢爛に作られるようになった元禄期を象徴する装束といえるでしょう。

(小山弓弦葉)

西洋版画と比べてみよう

浮世絵版画のキアロスクーロ?

11月1日(火)～11月27日(日)



近江勇婦お兼
歌川国芳 江戸時代・19世紀
西洋の銅版画を模した馬の表現と、浮世絵美人の対比が面白い

西洋の印象派の画家たちに影響を与え、現代絵画の扉を開くのに「浮世絵」は重要な役割を果たしました。日本で錦絵と呼ばれる多色摺りの木版技法が広まったのは、18世紀半ば過ぎのことですが、西洋では、それに先んじて16世紀初めに「キアロスクーロ」と呼ばれる同系色の版を重ねて明暗や立体感を表現する木版技法が誕生しました。当館隣の国立西洋美術館で10月8日から12月11日まで「キアロスクーロ」の展覧会が開催されます。これにあわせ、明暗や立体表現に挑戦した浮世絵を展示しています。東西の木版技法と表現の比較を楽しんでいただく機会になればと思います。

(田沢裕賀)

豪華な屋根飾り

鴟尾

常設

考古展示室の歴史時代のコーナーの奥にひととき大きな立体物があります。大阪府柏原市鳥坂寺跡(高井田廃寺)出土の鴟尾です。平成十一年度に修理が行われ、現在のような形に再復元されました。鴟尾とは屋根の大棟両端に据えつけられた棟飾りであり、古代の寺院・宮殿建築の多くに採用されましたが、土製のほかに石製あるいは記録に残っている金銅製のものなどがあったようです。巨大な鴟尾を建物の屋根まで持ち上げたことを考えると、古代の人びとがもつ建築の荘厳に対する篤い想いを知ることができます。

(日高 慎)



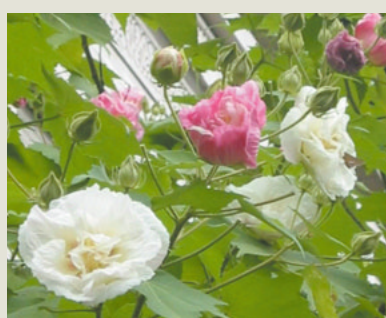
鴟尾 大阪府柏原市鳥坂寺跡(高井田廃寺)出土 奈良時代・8世紀
高さ1.35mの大きな棟飾り。後ろ側(腹部)に二つの蓮華文を施す

ほろ酔い美人の 醉芙蓉

芙蓉は中国、日本南西部原産のオオイ科の低木。夏から秋にかけて白やピンクの花を咲かせます。芙蓉には、朝清楚な白い花を咲かせていたのに、午後になるとほんのりピンクの花を咲かせるものがあります。この赤い色を作っているのは、ワインに含まれるポリフェノールの一種、アントシアニンという色素です。光によって生成されるため、だんだん赤く染まるのです。

東博には、本館の右脇、レストランコールの前に、美しい八重咲きの酔芙蓉があります。実はこの木は二代目。平成五年の台風で倒れたため、昭和四十三・四十五年頃に森永徳弘氏が種子を採取して育てていたという苗木をいただいで植えました。

東洋館の名宝、李迪の「紅白芙蓉図」(国宝)はこの花の色の移ろい様を描いたもの。恒例秋の名品選「中国書画精華」で公開しています。(本誌7ページ参照)



お昼ごろ、まだ白い花もすでに紅い花も



④ 東京芸術大学の鋳金研究室大学院のみなさん。前列右から、西岡美千代さん、佐治真理子さん、後列右から研究生の高木佑輔さん、助手の長谷川克義さん、山本崇之さん、大内航さん、吉野哲夫さん



③ 石膏模型を見ながら原型制作に取り組む保存修復彫刻研究室大学院のみなさん。右から、小島睦生さん、佐々木翼さん、藤曲隆哉さん

二〇〇五年一月の「唐招提寺展」。本尊・盧舎那仏を中心とする唐招提寺金堂内部の再現展示は多くの来館者の共感を得ることができました。同時に行われた盧舎那仏の制作工程模型展示「盧舎那仏のひみつ」も大きな話題となりました。そう、脱活乾漆造りによる盧舎那仏の制作工程を模型によってご覧いただいた展示です。東京国立博物館のお隣、東京芸術大学の保存修復彫刻研究室の学生ボランティアのみなさんの力で実現できたこの企画、ご記憶の方も多いのではないのでしょうか。

この秋、興福寺の「仏頭」の特別公

ようこそ！
博物館の舞台裏へ



第6回

「仏頭ができるまで」

この秋特別公開される興福寺の仏頭は白鳳彫刻を代表する金銅仏です。昔の人は金銅仏をどうやってつくったの？ みなさんの素朴な疑問に答える制作模型展示が芸大ボランティアの力によって実現しました。今回は、仏頭の模型制作の裏側をお見せします。

開にあわせて、再び東京芸術大学の協力を得、制作工程模型を展示することになりました。今回はこの制作工程模型のそのまた制作工程をルポします。題して「仏頭ができるまで」。

二つの研究室が協力

今回は、「仏頭 模型の原型制作」に関して保存修復彫刻研究室、鋳造に関しては鋳金研究室と二つの教室の協力を仰がなければなりません。このことひとつとっても工程が複雑で、手間のかかる仕事であることがわかりただけでしようか。

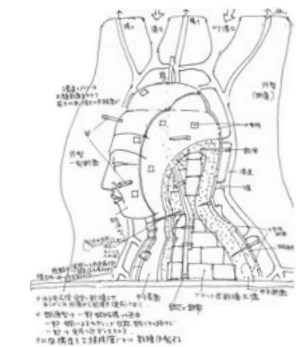
五月九日、保存修復彫刻の大学院一年生三人が、仏頭の原型制作にとりかかりました。二か月後、三つの仏頭が完成し、興福寺の「仏頭」にもっとも近いものが今回のプロジェクトの原型として採用されました。

夏休み返上！

ここで作業はバトンタッチ、鋳造工程が本格スタート。鋳金研究室の長い長い夏の始まりです。最初に塑造による仏頭を型取りし、蜜蠟を流し込んで、鋳造に使う蠟型原型をつくりました。



⑤ 鋳金研究室には火の神様「韃神」(ふいごしん)が祀られている



⑥ 戸津圭之介教授による仏頭鋳型構造模型設計図

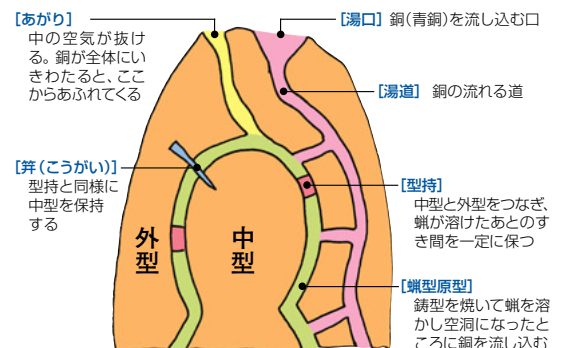
実は、本来は塑像の原型はつくりず、土でつくった中型(中子)の上に直接蜜蠟をつけて、仏像の蠟型原型をつくります。しかし、今回は工程模型という性格上、同じ蠟型原型を何体もつくる必要があることから、今回の方法を採用したのです。また、完成した模型は東博に寄贈され、今後さまざまな展示に活用される予定です。そのため、長期間の保管・展示に耐えるだけの強度が必要とされます。そこで、ほんものの「仏頭」には必要なかった裏技が随所に施されることになりました。たとえば、蠟型原型は内側を石膏で補強し、気温が上昇しても形を保てるようにしました。工程をどう見せるかも工夫のしどころです。「中型の構造がわかるように模型を半分に切つてみよう」。「外型の土を重ねる工程を段階的に示すために、一部分だけ土をつけてはどうか」。アイデアを出し、プランを練りながら、作業は試行錯誤で進みます。

中型の土台に使うレンガ、鋳型用の土や弁(銅釘など、鋳造工程で使う材料もひとつひとつ手をかけてつくります。実際に鋳型づくりに取り掛かれたのは夏休み直前のこと。夏休みは返上。八月はまさに、暑さと時間との戦いでした。

お盆前、蠟型原型に湯道をつけるところまでこぎつけました。お盆明け三日間で外型完成。翌週、鋳込み作業に突入。窯に火を入れてからは、徹夜の作業となります。二十三日鋳込み。そして今日、八月二十四日は割り出しです。作業はまだまだ

現在進行中、表面の仕上げ作業が残っています。

今回のようなプロジェクトはみな初めて。「単なる模造ではなく、工程を再現するところが難しかった」というのがみなさんの感想です。そう、昔の人がどうやっていたかなんて、実は誰にもわからないのですから。「つくり方、見せ方について、ぜひぶん話し合いました」。普段はそれぞれが自分の作品に向き合う毎日。今回のような共同作業は珍しいそうです。このプロジェクトに参加してよかったですか？ という質問には「会場でお客さんの反応を見るまではわからない」という声も。さて、どんな模型に仕上がったか。会期中は学生のギャラリートークも行予定。実際につくってみたからこそわかる「仏頭」のひみつも明かされるはず。彼らの声をぜひ聞きたい。きてください。(構成 小林 牧)



仏頭ができるまで 早わかり！金銅仏のつくり方

13 割り出し



鋳型を十分に冷ましてから外型と中型を割って、銅の像を取り出す

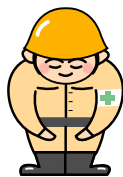
14 仕上げ



型持の穴は銅をはめてふさぎ、表面をなめらかに整形する。眉や目鼻など細かい部分は鑿(たがね)、切下(きさげ)で仕上げる

15 仏頭のできあがり

仕上げは会場でご覧ください



* 模型制作の工程は必ずしも原作品の制作工程と合致していません。ここでは、当時の鑄造工程にそったかたちで模型制作の現場を再編集してご覧いただいています

* 12ページ右上写真のみなさんの他、南時俊さん、浦島康仁さんが活動に参加しました

興福寺創建1300年記念 特別公開「国宝 仏頭」

9月21日(水)～10月16日(日)
東京国立博物館 本館 特別5室

同展示室にて、仏頭制作模型を展示します。東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートークの予定は、当館ホームページをご覧ください

10 鋳型を焼く



薪を焚いて鋳型を焼く。中の蠟を型外に溶かし出し、蠟型原型の部分を空洞にする

11 窯を壊し、焼けた鋳型を土間に埋める



焼き上がった鋳型



土間に埋める。藁はガスを抜く道になる

12 鋳込み



銅(青銅)を溶かす



溶かした銅を鋳型に流し込む



溶けた銅がさめるまでそのまま置く

6 外型をつくる



鋳物土で蠟型原型と湯道を覆う。一層目は厚さ5ミリ程度。目の細かい粘土を用いる



二層目は厚さ1センチ程度。少し目の粗い土を用いる。土を盛ったらすぐに使用済みの鋳型を砕いたものや、かわらのかけらを貼り付け、土の水分を取る。こうしてすばやく乾燥させ、土がだれて落ちるのを防ぐ

7 外型を補強する



鉄枠を施して外型を補強。当時仏頭をつくる際にこのようなことをしたかどうかは不明

8 湯口をつけて鋳型の完成



鉄枠全体を覆うようにに鋳物土を盛り付け、湯を流し込むためのお碗型の口をつけて、鋳型完成

9 窯を築く



鋳型の周りに石を積み、窯を築く

1 中型をつくる

芯となるレンガ。レンガは土を成形し、焼いてつくる



レンガの周りに鋳物用の土を盛り付け、中型(中子)をつくる。ここが仏像の中空の部分をつくる鋳型となる。土は一度鋳型として焼いたものを砕いた真土(まね)、小名浜砂、川砂などをブレンド、藁を加えてつくる

2 型持をつくる

中型に、数センチ角の突起をつくっておく。これを型持といい、蠟を溶かして、銅を流し込む空洞をつくる際に中型と外型のすき間を保つ役目を果たす



3 筭を打ち込む



筭も手作り

型持と同様、中型を保持するため、中型に筭(こうがい)を打ち込む。仏頭には5本の筭が打ち込まれている。もちろん模型も同じ箇所に打ち込む

4 蠟原型をつくる



中型に蜜蠟をつけ、仏像の形をつくる。蠟の厚さは1センチにも満たない

5 湯道をつける



鋳型に湯(溶かした銅)を注ぐ道をつける。湯を注ぐ際に中の空気をぬく道筋もつけておく。湯道は鑄造の成功の鍵を握る大切な工程。仏像のかたちにあわせて隅々まで湯がいきわたるように設計する。太さや道をつける際の角度も重要

INFORMATION

◆コンサートのお知らせ

ソプラノ 藤野カヨ リサイタル 万葉の歌物語

～大らかな万葉人の愛の歌1300年の時を越えて～

日 時 10月11日(火) 19:00開演 ※18:15正門開門
会 場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
出 演 藤野カヨ(ソプラノ) 加藤雅子(ピアノ)
曲 目 春過ぎて～持統天皇、わだつみの～天智天皇、
茜さす～額田王 ほか
作曲/構成: 藤野カヨ ※曲目は変更になることがあります
主 催 東京国立博物館
料 金 3000円(平常展観覧券付) 全席自由
※チケットは、当館正門観覧券売り場で販売
開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)
※電話予約販売
申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL03-3821-9270
受 付 月～金曜日の9:30～17:00(祝日は除く)
※チケットは、当館正門観覧券売り場にて現金引き換えにて
お渡しします
引換時間 開館日の9:30～閉館30分前(月曜休館)

上野・浅草—にほんの音 月を想い 奏でる夜

日 時 10月13日(木) 18:30開場 19:00開演
会 場 東京国立博物館 平成館ラウンジ
演 奏 薩摩琵琶: 友吉鶴心、逢坂誉士、丸山恭司 ゲスト: 尾崎亜美
曲 目 義経 ほか
主 催 台東区芸術文化財団 東京国立博物館
料 金 3500円(平常展観覧券付)
※チケットは東京国立博物館、東京文化会館チケットサービス、
台東区芸術文化財団事務局、浅草公会堂、チケットぴあで販売
※お問い合わせ: 台東区芸術文化財団 TEL03-5828-7591

◆講演会のお知らせ

京都国立博物館講演会

日 時 10月1日(土) 13:30～15:00
会 場 東京国立博物館 平成館大講堂
「京都国立博物館蔵品・寄託品 日本近世絵画について」
京都国立博物館館長 佐々木丞平
主 催 東京国立博物館 京都国立博物館
定 員 250名(当日受付先着順)
※聴講無料(ただし当日の入館料は必要です)

東大寺講演会

日 時 11月27日(日) 13:30～16:00
会 場 東京国立博物館 平成館大講堂
「公慶上人 江戸時代の大仏復興」
奈良国立博物館学芸課資料室長 西山 厚
「江戸期の東大寺」
華嚴宗管長・第218世東大寺別当 森本公誠
主 催 東京国立博物館 奈良国立博物館 東大寺
定 員 200名(事前申込制・先着順)
※聴講無料(ただし当日の入館料は必要です)

申込先 東京国立博物館イベント担当 TEL03-3821-9270
9月20日(火)9:30から電話予約開始
月～金曜日の9:30～17:00(祝日は除く) 受付
定員になり次第、受付終了

※各イベントの詳細は、東京国立博物館イベント担当(TEL 03-3821-9270)または、
当館ホームページでご確認ください
※お車での来館はご遠慮ください

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究、平常展・施設整備等の充実に充てております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいませよう願ひ申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効
賛助会員には、特別会員と維持会員との二種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円 個人 5万円

特典

- 特別展の特別内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付
- *賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
- *ご希望の方には資料および東京国立博物館賛助会員(TNM Members)入会申込書をお送りします。
- *お問い合わせは
東京国立博物館営業開発部 賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2005年8月21日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社
ホテルオークラエンタープライズ様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
東京新聞・中日新聞社 様
株式会社 電通 様
読売新聞東京本社 様
クラブツーリズム株式会社 様

維持会員

三菱電機
ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
小金井造園株式会社 様
財団法人ソニー教育財団 様
株式会社 NTTドコモ 様

斎藤 京子 様
井上 萬里子 様
田添 博 様
京葉匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 裕次郎 様
飯内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
井上 静男 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
寺本 明男 様
櫛田 良豊 様
株式会社
スタイルカフェ・ドット・ネット様
長谷川 英樹 様

池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨ株式会社 様
星埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
林 宗毅 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術蔵本 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
大嶋 道子 様
牧 美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
山本 富三郎 様
寺浦 信之 様
高木 弘幸 様
高木 美華子 様
晩飯島工業株式会社 様

(ほか19名4社、順不同)

◆留学生の日 11月23日(水・祝)

日本で学ぶ留学生の皆さんを無料招待いたします。平常展の観覧が無料、講演会、邦楽演奏、お茶会など各種イベントも開催。

◆庭園開放 10月25日(火)～11月30日(水)

本館北側の庭園を開放します。美術鑑賞とともに、秋のさわやかな庭園の散策をお楽しみください。

◆重文 十輪院宝蔵公開 10月4日(火)～10月23日(日)

法隆寺宝物館裏の十輪院宝蔵(校倉)を公開します。柵の中に入り、近くからじっくりとご覧いただくことができます。

◆特別公開「国宝 仏頭」のカタログ&ポスタープレゼント 20名様

はがきに、住所・氏名(ふりがな)・男女・年齢・職業ならびに、この号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。締め切りは11月10日。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9

東京国立博物館 広報室

「ニュース10・11月号」プレゼント係宛



◆九州国立博物館 10月16日(日) 開館 文化は西から、九州から

九州国立博物館がいよいよ10月16日(日)に開館します。東京・京都・奈良に次ぐ、四番目の国立博物館です。九博は、アジアの視点から日本の文化をみつめる博物館です。

東博の平常展にあたる「文化交流展」では、アジア諸地域との交流に焦点をあてながら、旧石器時代から近世末期(開国)までの日本文化の歴史をたどります。題して「海の道、アジアの路」。中央の大きな基本展示室とそれを取りまく十四の関連展示室、併せて三九〇〇平方メートルの空間で、「縄文人、海へ」「稲づくりから国づくり」「遣唐使の時代」「アジアの海は日々これ交易」「丸くなった地球 近づく西洋」という五大テーマを展開。国宝・重要文化財を含む多種多様な展示作品に、今までの国立博物館にはなかった観点が迫り

ます。

さらに、開館記念特別展「美の国 日本」(10月16日～11月27日)を開催。文化交流展(平常展)と同様に、海外との交流に焦点をあてた画期的な展覧会です。朝鮮半島や中国との交流のなかで花開いた古代日本文化。西洋との出会いを契機に、創造性あふれる美術が次々と生まれた桃山時代。この二つの時代のうねりと風を今に伝える作品を、国内外の多くの美術館、博物館の協力のもと一堂に集めました。正倉院宝物も十三件出品されます。常に外に向かって開かれていた九州という土地ならではの感性と切り口で、日本文化の新しい側面に光をあてます。

東博友の会やパスポートもご利用いただけます。ぜひこの機会に九博におでかけください。

開館時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)
休館日
月曜日(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)
年末(2005年は12月26日～12月31日)
※10月16日～11月27日は原則として無休
観覧料：一般420円 高・大生130円
開館記念特別展「美の国 日本」
10月16日(日)～11月27日(日)
一般1300円 高・大生1000円 小・中生600円
お問い合わせ：0570-008886 (ハローダイヤル)
ホームページ：http://www.kyuhaku.jp



九州国立博物館外観



●松浦屏風 奈良・大和文化館蔵 開館記念特別展「美の国 日本」で公開

東京国立博物館友の会 & パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効
特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 3000円 学生 2000円
発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で友の会

加入者名(振替先) 東京国立博物館友の会
口座番号 00160-6-406616
金額 1万円
*振替用紙には職業・年齢・性別・ご希望のプレゼント番号(パンフレット、ウェブサイト参照)を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名(振替先) 東京国立博物館パスポート
口座番号 00120-3-665737
金額 一般3000円、学生2000円
*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入ください
*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください
*振替手数料はお客様のご負担となります
*郵便振替でのお申込には2週間かかります
*九州国立博物館は平成17年10月16日開館

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期郵送をご希望の方は、年間(6冊分)1000円の送料・事務費のご負担お届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先) 東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101
*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
*お申し込みは1年ごととなります。複数年のお申し込みは受けられませんのでご了承ください
*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
*振替手数料は申込者のご負担となります
*次号より送付ご希望の場合、締め切りは11月10日です

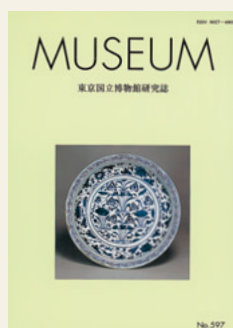
東京国立博物館利用案内

開館時間：9時30分～17時、4月～12月の特別展開催期間中の金曜日は20時まで、4月～9月の土・日・祝・休日は18時まで(入館は閉館の30分前まで)

休館日：毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)。ゴールデンウィークおよびお盆期間(8月13日～8月15日)は原則として無休

平常展観覧料金

一般420(210)円、大学生130(70)円
*()内は20名以上の団体料金
*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
*満65歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください



- ◆MUSEUM 597号
(平成17年8月15日発行)の掲載論文
- ①「山本素野筆十二月花鳥図屏風の制作事情」
サンフランシスコアジア美術館本における近衛家熙の役割」
遠藤実子(当館広報室)
 - ②「栗氏図録」―栗本丹洲の自筆草木図譜―
磯野直秀(慶應義塾大学名誉教授)
 - ③「広島県福山市柳津(下迫貝塚)」
出土土偶について」
水ノ江和同(福岡県立アジア文化交流センター)
 - ④「法隆寺献納宝物 広東綾幡」
―平成十五・十六年度の修理で判明した新知見―
沢田むつ代(当館環境保存室長)
 - ⑤「新収品紹介」青花蓮池文大皿 景德鎮窯」
今井 敦(当館特別展室長)

2005年10月

東京国立博物館 10月・11月の展示・催し物

2005年11月

1 SAT	京都国立博物館講演会 13:30 14:00 14:30 15:00 「京都国立博物館蔵品 寄託品 日本近世絵画について」13:30 平成館大講堂*1
2 SUN	講演会「興福寺仏頭をめぐる」13:30 平成館大講堂*2 14:00 15:30「不動明王像の性格と造形—ファッションの側面から—」本館1階エントランス
3 MON	休館日
4 TUE	「華麗なる伊万里・雅の京焼」 列品解説「寛永の三筆と江戸の和様・唐様」 重文 十輪院宝蔵公開 14:00 本館8室
5 WED	14:30 15:00
6 THU	14:00 14:30
7 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
8 SAT	14:00 14:30 15:00 15:30「古代の漆工芸—漆皮箱を中心に」法隆寺宝物館1階エントランス
9 SUN	14:00 14:30
10 MON	
11 TUE	休館日 ソプラノコンサート 19:00 平成館ラウンジ*3
12 WED	記念公演 能「重衡」17:30 平成館ラウンジ*4 14:00 14:30 15:00 15:30「李迪筆「紅白芙蓉図」について」東洋館1階エントランス
13 THU	14:00 14:00 14:30 15:30「江戸の着物と衣装」本館1階エントランス にほんの音コンサート 19:00 平成館ラウンジ*5
14 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
15 SAT	15:30「法隆寺宝物館における菩薩半跏像—日韓菩薩半跏像の比較—」 13:30 14:00 14:30 15:00 法隆寺宝物館1階エントランス
16 SUN	12:30、14:00 14:00 14:30 特別公開「国宝 仏頭」最終日
17 MON	休館日
18 TUE	列品解説「文化財保存の術—ケアとキュアー—」14:00 本館特別2室 15:30「李迪筆「紅白芙蓉図」について」東洋館1階エントランス
19 WED	14:00 14:30 15:00
20 THU	14:00 14:30 15:30「江戸の着物と衣装」本館1階エントランス
21 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
22 SAT	記念講演会「仁清の茶壺」13:30 平成館大講堂*6 14:00 14:30 15:00 15:30「法隆寺宝物館における菩薩半跏像—日韓菩薩半跏像の比較—」法隆寺宝物館1階エントランス
23 SUN	重文 十輪院宝蔵公開 最終日 14:00 14:00 14:30
24 MON	休館日
25 TUE	北斎展 列品解説「文化財修理に対する考え方の変遷」14:00 本館特別2室 庭園開放 15:30 李迪筆「紅白芙蓉図」について 東洋館1階エントランス
26 WED	見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30*7 14:00 14:30 15:00
27 THU	14:00 14:30 15:30「江戸の着物と衣装」本館1階エントランス
28 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
29 SAT	座談会「文化財修理の条件」13:30 平成館大講堂*8 14:00 14:30 15:00 15:30「法隆寺宝物館における菩薩半跏像」法隆寺宝物館1階エントランス
30 SUN	14:00 14:30
31 MON	休館日

- ★＝ボランティアによる本館ハイライトツアー ……集合場所：本館1階エントランス
□＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
○＝ボランティアによる陶磁アリアガイド ……集合場所：本館1階エントランス
◎＝ボランティアによる彫刻ガイド ……集合場所：本館1階エントランス
●＝ボランティアによる樹木ツアー ……集合場所：本館1階エントランス
◎＝ボランティアによる考古展示室ガイド ……集合場所：平成館考古展示室入口
●＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド ……集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス

1 TUE	列品解説「修理の現場と保存修復課」14:00 本館特別2室
2 WED	14:30 15:00
3 THU	14:00 14:30
4 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
5 SAT	13:30 14:00 14:30 15:00
6 SUN	14:00 14:30
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説「浮世絵の光と陰影(かげ)」14:00 本館10室
9 WED	見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30*9 14:00 14:30 15:00
10 THU	14:00 14:00 14:30
11 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
12 SAT	記念講演会「北斎の生涯と芸術」13:30 平成館大講堂*10 14:00 14:30 15:00
13 SUN	14:00 14:30
14 MON	休館日
15 TUE	列品解説「博物館のいろいろな環境」 本館特別2室
16 WED	14:00 15:00
17 THU	連続講座「字体の変遷—隷書の黎明—」14:00 資料館セミナー室*11 14:00 14:30
18 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
19 SAT	記念講演会「伊万里磁器の魅力に迫る」13:30 平成館大講堂*12 13:30 14:00 14:30 15:00
20 SUN	12:30～14:00 14:00 14:30
21 MON	休館日
22 TUE	列品解説「重要文化財 埴輪盛装女子と埴輪の修理」 14:00 本館特別4室
23 WED	留学生の日 14:00 14:30 15:00
24 THU	14:00 14:30
25 FRI	夜間開館 (20:00まで) 14:30
26 SAT	講演会「馬の考古学—古墳時代を中心に—」13:30 平成館大講堂 14:00 14:30 15:00
27 SUN	東大寺講演会「公慶上人 江戸時代の大仏復興」「江戸期の東大寺」 14:00 14:00 14:30 13:30 平成館大講堂*13
28 MON	休館日
29 TUE	列品解説「本館の建築デザインと光」14:00 本館特別1室
30 WED	14:30 15:00 庭園開放 最終日

- 12/4まで
●＝ボランティアによる応挙館茶会 ……集合場所：本館1階エントランス
(参加費500円、開始1時間前に本館1階で整理券配布)
◎＝ボランティアによる九条館茶会、集合場所：本館1階エントランス
(参加費500円、呈席席、先着100名様)
●＝ボランティアによる庭園茶室ツアー ……集合場所：本館1階エントランス
(開始1時間前に本館1階で整理券配布、11月のツアーは庭園開放時のため簡略版で実施)
◎＝東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク
*1(本誌14ページ) *2,4は事前申込制(申し込みは締め切りました)。*3,5は有料イベントです(本誌14
ページをご覧ください)。*6,12(本誌3ページ)、*7,8,9(本誌6ページ)、*10,11(本誌5ページ)、*13(本
誌14ページ)は事前申込み制です。()内の本誌ページをご覧ください。※上記の予定は予告なく変更
になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください

〈京都国立博物館〉10/8(土)～11/20(日) 特別展覧会「最澄と天台の国宝」	〈奈良国立博物館〉9/20(火)～10/10(月・祝) 特別展「遣唐使と唐の美術」	10/29(土)～11/14(月) 「第57回 正倉院展」	〈九州国立博物館〉10/16(日)～11/27(日) 開館記念特別展「美の国 日本」
--	--	----------------------------------	---